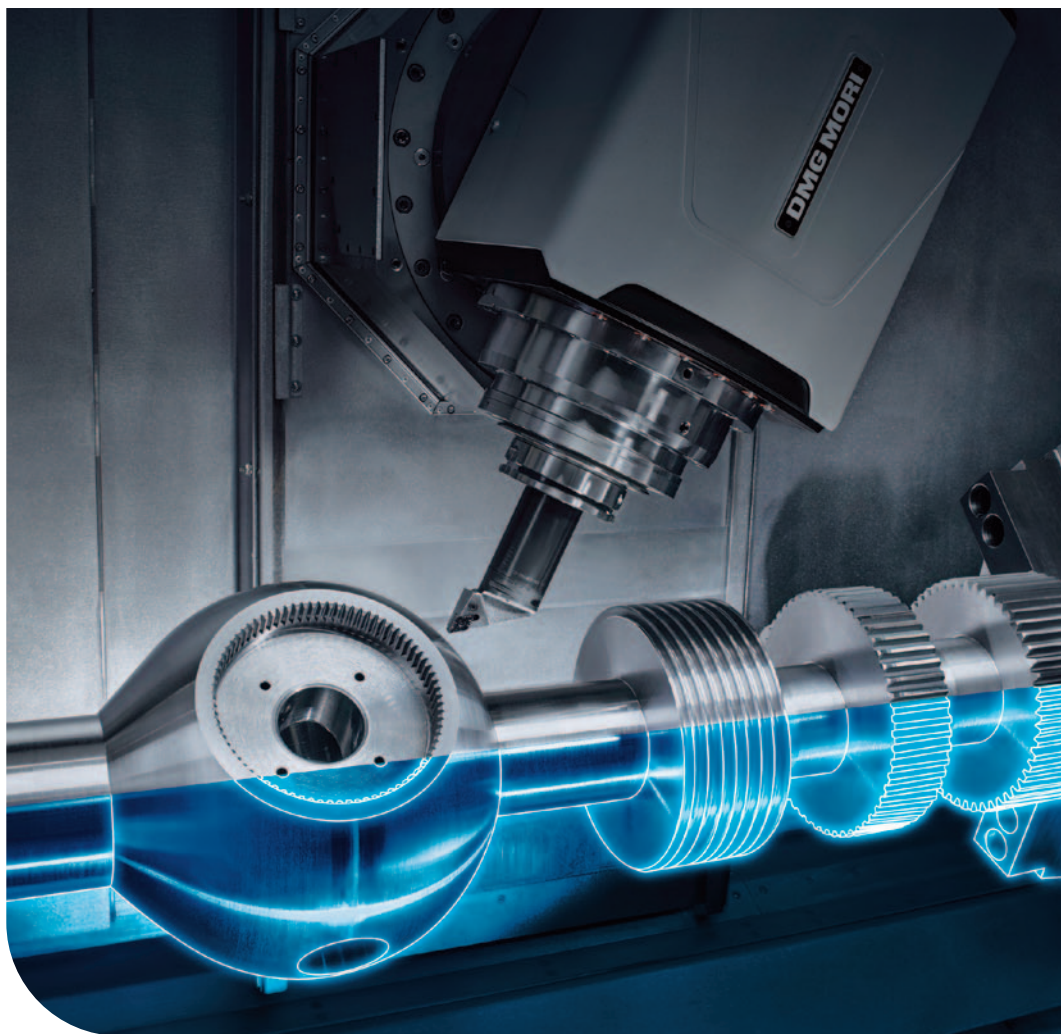


第70期 中間 | 株主通信

2017年1月1日●2017年6月30日



DMG森精機株式会社

証券コード: 6141

DMG MORI



お客様にとって一番の
工作機械メーカーであること。
それが私たちのグローバルワンです。

工作機械の総合メーカーとして、DMG森精機は常に変革と挑戦を続けてまいりました。そして今、私たちが目指していること。それは、お客様にとって一番の工作機械メーカーになることです。最高の技術とサービスを絶えず追求し、工作機械の新しい価値を、無限の可能性を、世界中のお客様へお届けしてまいります。

取締役社長
博士(工学) 森 雅彦

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、心よりお礼申し上げます。
ここに第70期中間期(2017年1月1日から2017年6月30日まで)の
株主通信をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

Q 当中間期の業績は?

当第2四半期連結累計期間における業績は、売上収益は198,081百万円(1,627,619千EUR)、営業利益は9,019百万円(74,112千EUR)、税引前四半期利益は6,968百万円(57,262千EUR)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は3,570百万円(29,334千EUR)となりました。当社の工作機械の上半期(2017年1月から6月)の受注は、前年同期比16%増と好調に推移しました。四半期ベースでは、第1四半期(同年1月から3月)の前年同期比伸び率の9%増から、第2四半期

(同年4月から6月)にはその伸び率は24%増と加速しました。グローバル市場においては、半導体製造装置関連、航空機関連、一般機械関連、SMEs (Small and Medium-sized Enterprises) 向けの工作機械の需要が好調です。また、自動車向け需要も堅調に推移しているほか、建設機械業界向け需要も回復傾向を強めつつあります。上半期の地域別受注は、日本が前年同期比5%増、米州は同16%増、欧州は同19%増と当社主要地域で好調だったほか、中国、アジア諸国も前年同期比でも回復の足取りが確かなものとなりました。2017年9月には、ドイツ・ハノーバーで世界最大の展示会が開催予定で

※ユーロ建表示は2017年1月から6月の期中平均レート121.7円で換算しております。

あり、同年5月の米国・シカゴ、6月の伊賀でのイノベーションデイズに続き、世界初披露機であるワールドプレミア8機種に加え、デジタル化、自動化などソリューションの提供を強化し、さらなる受注の獲得に努めてまいります。

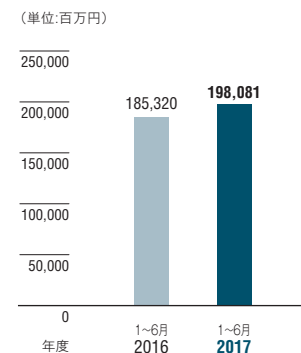
Q 当中間期の技術と成果は?

技術面においては、セレクトイブレイザメルティング方式を採用したアディティブマニファクチャリング機「LASERTEC 30 SLM」を日本で初披露し、受注を開始いたしました。既存のパウダーノズル方式の製品に加え、新たにセレクトイブレイザメルティング方式の製品を取り揃えたことにより、金属ワークを生成する

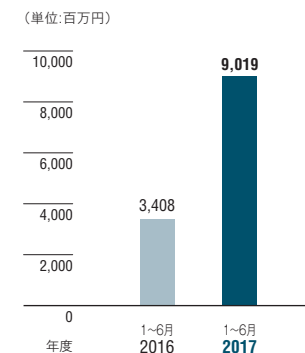
主要な積層造形プロセスをすべて当社から提供できるようになります。また、切削能力と精度を大幅に向上させた立形マシニングセンタ「NVX 5080 2nd Generation」を世界初披露いたしました。これからも引き続き、幅広いお客様に新たなイノベーションを提供できるよう様々な新製品の開発を進めてまいります。

販売面につきましては、2017年5月に米国・シカゴで、同年6月に伊賀で開催した、自社展示会イノベーションデイズが受注獲得につながっております。同展示会では、コネクテッドインダストリーズ/インダストリー4.0に焦点を当てた展示に加え、ショールーム内の機械やロボットをネットワークで接続して「CELOS」で管理・モニタリングを行うスマートファクトリーの実例を紹介いたしました。また、テクノロジー

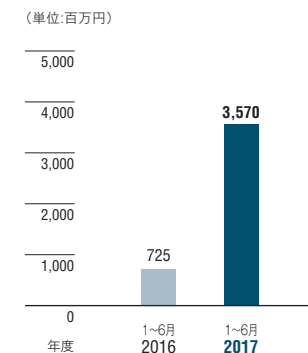
連結売上収益



連結営業利益



親会社の所有者に
帰属する四半期利益



サイクルを搭載した製品のデモ加工を実演することで、機械のみではなくハードとソフトの両面からお客様をサポートする当社の強みをお客様に広く理解いただくことができました。その他、同年4月には世界4大工作機械見本市の一つである北京でのCIMTにも出展し、自動車業界などから多くの問い合わせをいただいております。

2017年1月には、当社東京グローバルヘッドクォーター内に「先端技術研究センター」を設立いたしました。このセンターでは、IoT、コネクテッドインダストリーズ/インダストリー4.0、人工知能ロボット、COP22による脱炭素、電気自動車(EV)、自動運転、フィンテック(ブロックチェーン)、シェアエコノミーなどの新技術による社会の変革を意識した取り組みを実施します。さらに「企業内大学院」としての役割を兼ね備え、今後は変革を主導する優秀な人材の発掘や育成、支援にも力を入れてまいります。

なお、第70期の中間配当につきましては、当社の業績と経済情勢を勘案し、1株あたり15円を9月15日からお支払いすることといたします。

Q 通期の見通し および今後の事業戦略は？

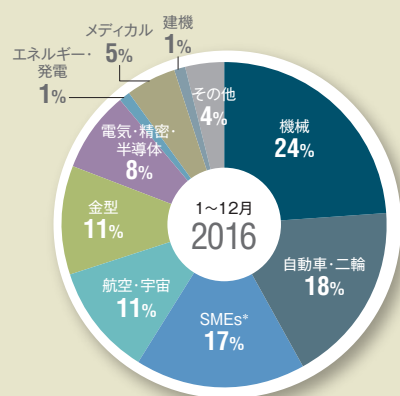
通期における業績について、2017年2月10日の「平成28年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想から、好調な受注環境を背景として、売上収益、営業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益の予想を上方修正いたしました。売上収益は403,000百万円、営業利益は26,000百万円、親会社の所有者に帰属する当期利益は14,000百万円を予想しております。

事業戦略につきましては、生産環境をネットワークでつなぐIoTやコネクテッドインダストリーズ/インダストリー4.0を推進し、革新的な商品と

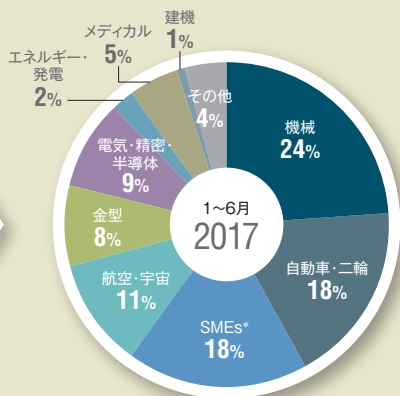
サービスでお客様の面倒を一手に引き受けるべく、「Smart Machine、Smart Factory、Smart Company」の提案をしております。オペレーションシステム「CELOS」やMAPPS Connected、自動化システムの活用は、加工時間の短縮だけではなく工場全体での生産工程の省人化も可能にします。さらに、マイクロソフト社のクラウドプラットフォーム「Azure」を用いて工場と工場をつなぎ、世界中の機械の稼働率を管理することができます。また、こうしたソリューションを一括で提案するためにテクノロジーサイクルを拡充させているほか、品質・性能・保守性に優れた周辺機器を「DMQP」として認定し、お客様への提案から納入・保守までを行っております。他にも周辺機器のより自由な組み合わせやレイアウト変更を可能にするモジュール式セルシステムを採用するなど、世界中の技術や経験を自由自在に組み合わせ、生産性の高いトータルソリューションの提供を目指してまいります。

さらに企業づくりの一環として、当社では在宅勤務の拡充、コアタイム制の導入、残業ゼロに向けた意識改革などの働き方改革を推進しております。今までの取り組みに加えて、2018年4月からは国内全事業所に社内託児所を常設いたします。“よく遊び、よく学び、よく働く”をモットーに、今後も全社を挙げて社員のワークライフバランスの充実、さらなる生産性の向上を図ります。利益配分につきましては、将来の事業計画、業績、財務状況、新製品や新技術を中心とした開発投資及び設備投資の充実などを総合的に考慮し、安定的かつ継続的に配当を実施していくことを基本方針としております。期末の1株あたりの配当予想は、15円(年間配当30円)でございます。株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

受注構成(業種別)

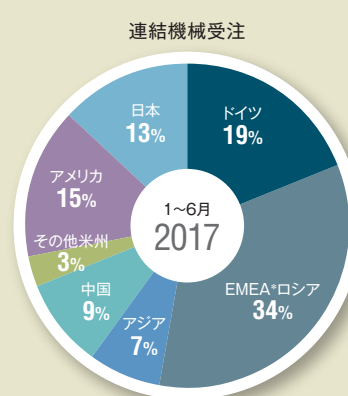


※金額ベース ※機械本体のみ

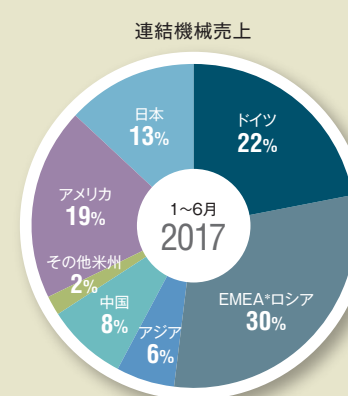


* Small and Medium-sized Enterprises

地域別受注・売上構成



※金額ベース ※機械本体のみ

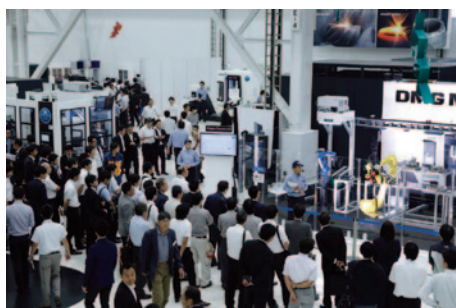
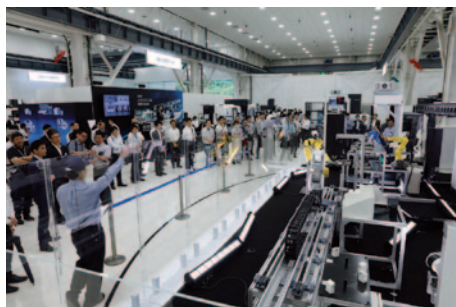


* Europe, Middle East and Africa

2017年6月

IGA INNOVATION DAYS 2017を開催

6月20日(火)から6月24日(土)の5日間、伊賀事業所にてIGA INNOVATION DAYS 2017を開催いたしました。世界最高クラスの切削能力を発揮する立形マシニングセンタ「NVX 5080 2nd Generation」を世界初披露、セレクトィブレーザーメーティング方式を採用したアディティブマニファクチャリング(Additive Manufacturing 以下、AM)機である「LASERTEC 30 SLM」を日本初披露しました。「NVX 5080 2nd Generation」は、第1世代機でお客様からいただいたご要望を反映し、コラム・ベッド連結部を強化することで当社従来金型機の2倍の切削能力を実現、また、マグネスケール社製のダイレクトスケールフィードバックを全軸に標準装備することで高精度な位置決め・高い面品位を実現し、剛性と面品位とを兼ね備えた立形マシニングセンタです。「LASERTEC 30 SLM」は、2月に子会社化したREALIZER社とのコラボレーションで生まれたAM機です。材料を付加し3次元形状に造形するAM技術を搭載しており、部品点数の削減や製造工程の簡素化を実現します。AM分野におけるセレクトィブレーザーメーティング方式とダイレクトエナジーデポジションの両技術を取り揃え、技術革新をより一層推進します。この他にも、コネクテッドインダストリーズ/インダストリー4.0への取り組みと自動化ソリューションについて史上最大のエリアで紹介しました。ショールーム内の機械とロボットをネットワークで接続し、「CELOS」で管理やモニタリングを行うスマートファクトリーの実例をご紹介します。期間中は約9,000人ものお客様にご来場いただきました。2017年下半期には、9月にドイツ・ハノーバーでのEMO 2017への出展を控えており、新機種の初披露も多数予定しております。



NVX 5080 2nd Generation



LASERTEC 30 SLM

2017年7月

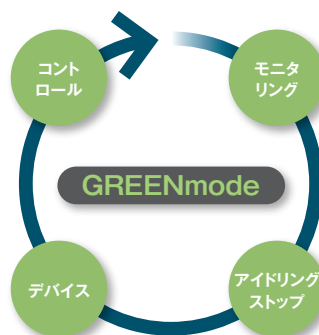
先端技術研究センターを開所

2017年1月に設立した先端技術研究センター(以下、研究センター)の施設が東京グローバルヘッドクォーター内に完成し、7月24日に開所式を行いました。研究センターはIoT、コネクテッドインダストリーズ/インダストリー4.0、人工知能ロボット、COP22による脱炭素、電気自動車(EV)、自動運転、フィンテック(ブロックチェーン)、シェアエコノミーと、「既に起きている未来」の変革を主導する人材を集積し、その時代に求められる顧客価値と社会的価値を創出し、顧客に提供する人材を育成するため設立されました。研究員はDMG MORIの競争優位の基盤となるべく、2年間で機械学習のプログラミング、IoT、ネットワーク、クラウド、英語力を習得し、専門家集団として活躍します。センター長に東京大学名誉教授である松島 克守先生に就任いただき、東京大学・大学院の教育水準での研究指導により、先端技術の分野に卓越した高度専門技術社員を育成していただきます。



2017年6月

45%の省電力を実現するGREENmode



DMG MORIは、従来機比45%の省電力を実現する、GREENmode標準搭載を開始いたしました。加工条件の向上による加工時間の最短路・見える化・無駄削減・最新技術搭載の4つの視点から、機械毎に加工用途や機械特性を反映、最適化させた様々な機能を搭載いたします。中でも、制御によって加工条件の向上、加工時間の最短路に貢献する機能が9機能と充実している点が当社の特長です。①GREENコントロール(加工条件の向上による加工時間の最短路)、②GREENモニタリング(見える化)、③GREENアイドルストップ(無駄削減)、④GREENデバイス(最新技術の搭載)の4つのアプローチで、お客様の生産効率向上に寄与すると同時に、環境保護という観点から社会貢献をさせていただきます。

2017年6月

国内全事業所で社内託児所を開設

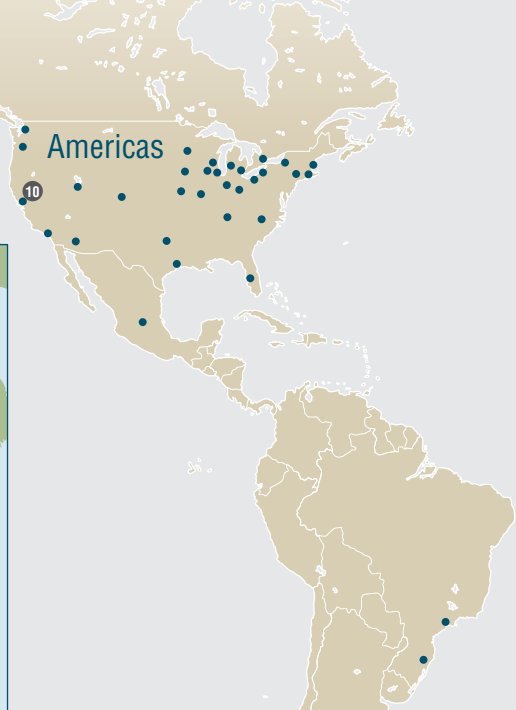
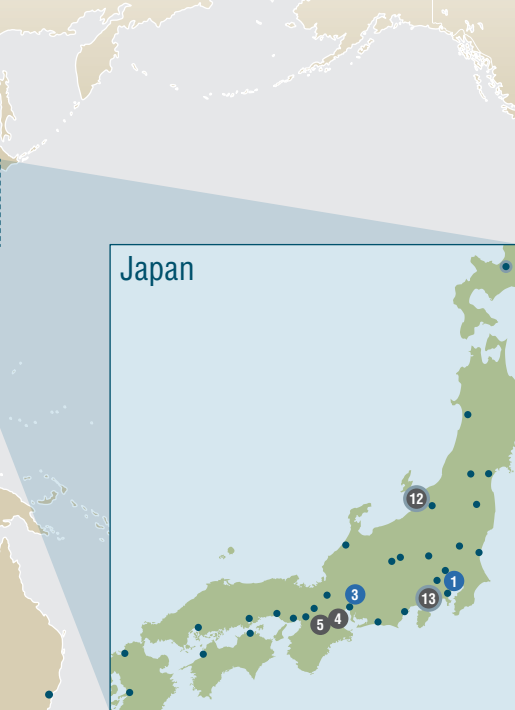
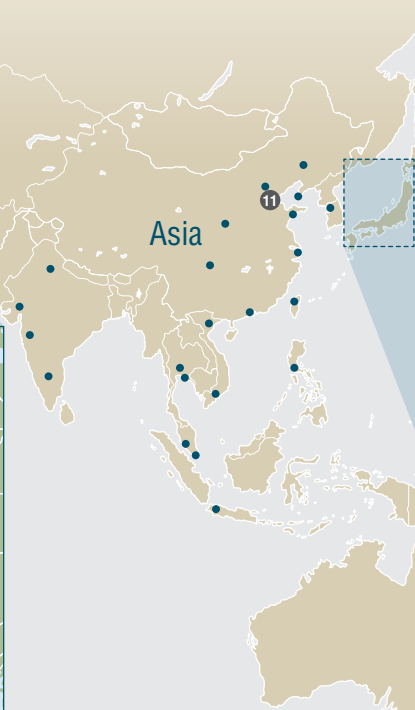
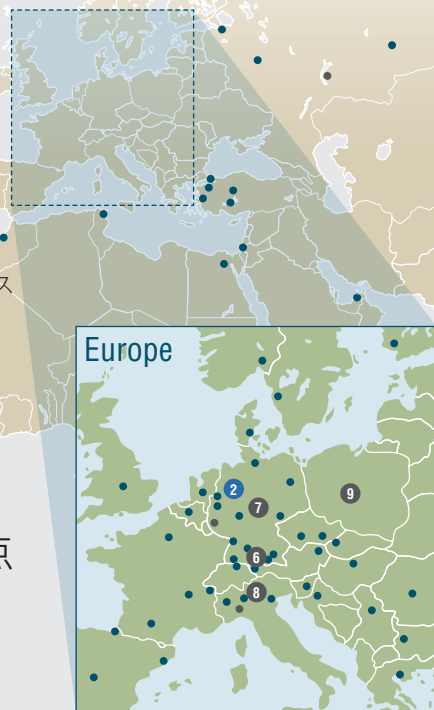
2018年4月より伊賀・奈良事業所、名古屋本社、東京グローバルヘッドクォーターの国内全事業所にて、新築または既存施設の改修等により、社内託児所を開設いたします。「子供がそばにいて安心。焦燥感なく効率的に働ける。」などの声を受け、2016年から週末の出勤日に限定して開設していた社内託児所を、創業70周年の節目を迎える2018年より常設することとなりました。社員が出産後も安心して働き続けることができるよう、今後も社員の声に耳を傾けてまいります。

全世界でお客様をサポートしています。

全世界のセールス&サービス

46カ国
157拠点

- セールス & サービス
- グループ会社
- 生産拠点



グローバル
ヘッドクォータ

DMG MORIのセールス・サービス・マーケティングを統括します。



1 東京(日本)

ナショナルヘッドクォータ

ドイツ

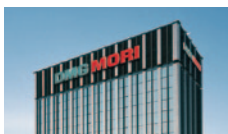
DMG MORI AGの
本社として
機能します。



2 Bielefeld(ドイツ)

日本

DMG森精機の
本社として
機能します。



3 名古屋(日本)

生産拠点 (日本)



4 伊賀(日本)



5 奈良(日本)
奈良システムソリューション工場

生産拠点 (ドイツ・イタリア・ポーランド・アメリカ・中国・グループ会社)



6 Pfronten(ドイツ)



7 Seebach(ドイツ)



8 Bergamo(イタリア)



9 Pleszew(ポーランド)



10 Davis(アメリカ)



11 Tianjin(中国)



12 太陽工機(新潟)



13 マグネスケール(神奈川)

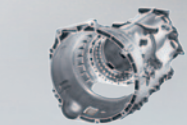
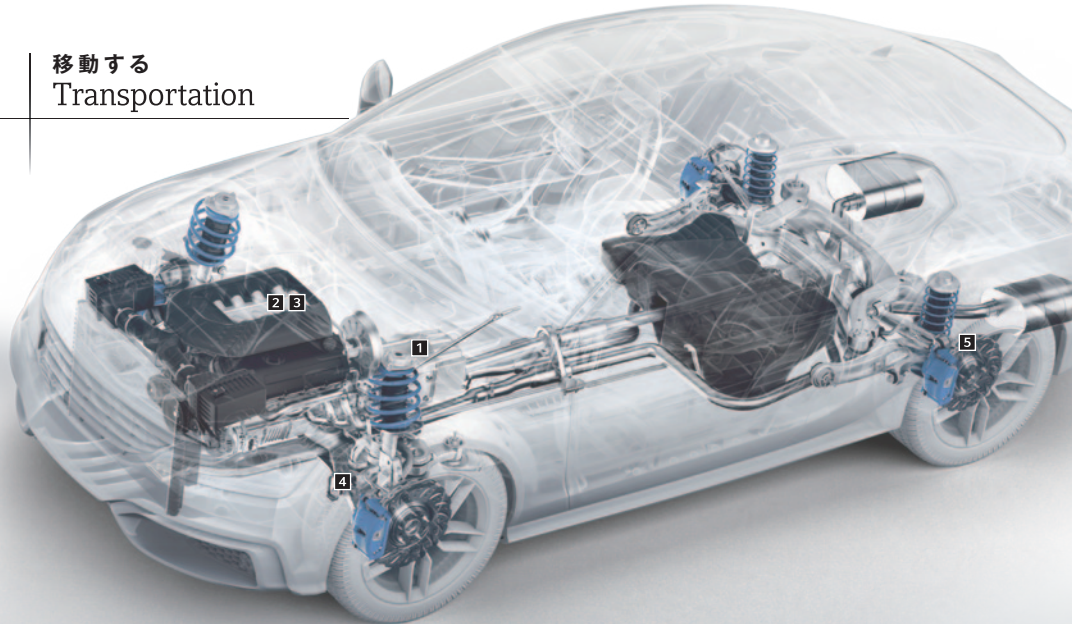
※主要生産拠点、他数ヶ所

この世界にDMG MORI

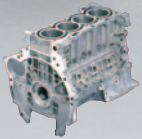
私たちの生活は衣食住に加えて、移動する、通信する、健康に暮らすなどの行動で成り立っています。そしてそのすべての人間活動に工作機械は欠かせません。例えば自動車は工作機械が削り出した多数の部品で構成されています。また、ペットボトルは工作機械によって削られた金型に原料を流し込んで生み出されています。このように、一見関係がないように思える身近な日用品も、実はもとをたどれば工作機械が関わっています。工作機械の進化によって、私たちの生活はより豊かになります。



移動する Transportation



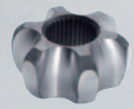
1 ZF 8HP ギヤボックスハウジング



2 シリンダブロック



3 クランクシャフト



4 CVJ インナーレース



5 ホイールハブ

住む Living



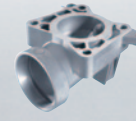
1 タービンブレード



2 ドリルヘッド

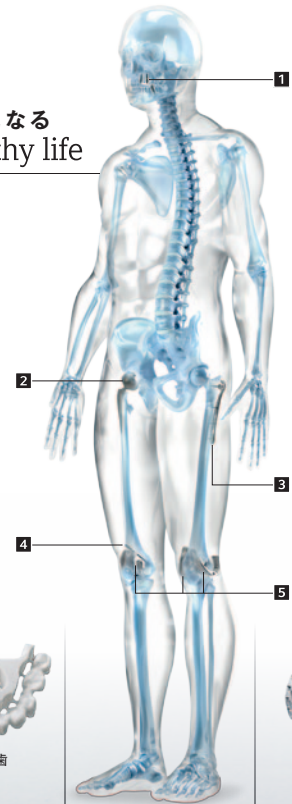


3 建機部品



ポンプハウジング

健康になる Healthy life



1 義歯



2 ソケット



3 股関節



4 骨ねじ



5 膝関節

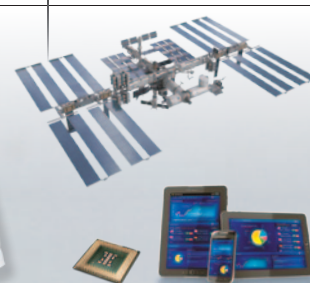
食べる Food



着る Garments



知る Information



連結財政状態計算書

(単位:百万円)

科目	前期	当中間期
	2016年 12月31日現在	2017年 6月30日現在
流動資産	259,983	239,404
非流動資産	298,238	303,053
有形固定資産	137,441	134,778
のれん	65,641	69,536
その他の無形資産	66,346	67,591
その他	28,810	31,148
資産合計	558,222	542,458
流動負債	180,261	171,377
非流動負債	275,477	267,193
資本合計	102,482	103,887
負債及び資本合計	558,222	542,458

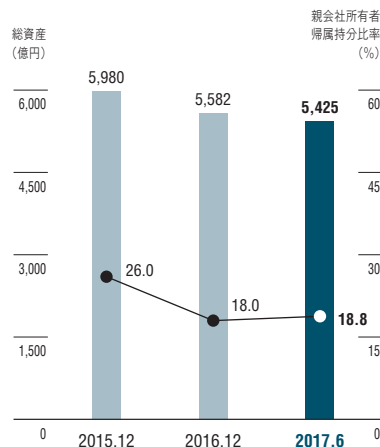
連結損益計算書

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

科目	前中間期	当中間期
	自2016年1月1日 至2016年6月30日	自2017年1月1日 至2017年6月30日
収益合計	188,394	201,297
売上収益	185,320	198,081
その他の収益	3,073	3,216
費用合計	184,985	192,278
商品及び製品・ 仕掛品の増減	△268	3,401
原材料費及び 消耗品費	80,908	86,605
人件費	58,913	57,514
減価償却費及び 償却費	8,413	8,886
その他の費用	37,018	35,870
営業利益	3,408	9,019
税引前四半期利益	2,340	6,968
四半期利益	1,973	3,739
親会社の所有者	725	3,570
非支配持分	1,248	169

総資産／親会社所有者帰属持分比率



連結キャッシュ・フロー計算書

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

科目	前中間期	当中間期
	自2016年1月1日 至2016年6月30日	自2017年1月1日 至2017年6月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	△13,282	△4,629
投資活動による キャッシュ・フロー	△6,716	△4,073
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,378	△17,402
現金及び 現金同等物に係る 換算差額	△9,241	958
現金及び 現金同等物の 増減額(△は減少)	△30,618	△25,147
現金及び 現金同等物の 期首残高	83,577	67,750
現金及び 現金同等物の 四半期末残高	52,959	42,603

詳しい解説は「連結決算Q&A資料」より
ご覧いただけます。

DMG森精機 投資家

検索

<https://www.dmgmori.co.jp/corporate/ir/>

2017年2月10日の「平成28年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想から、好調な受注環境を背景として、売上収益、営業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益をそれぞれ修正しております。

年度売上を当初予想の3,800億円から
4,030億円へ増額いたしました。

為替の影響に加え、日本、欧州、中国、アジアの受注が好調に推移したことが要因です。地域別の増額幅は、日本で40億円、欧州で100億円、中国で50億円、他アジアで40億円と見込んでおります。

年度営業利益を当初予想の220億円から
260億円へ増額いたしました。

売上が期初計画を上回ることによる数量効果で60億円、為替の影響で8億円と、プラス効果合計で70億円を見込んでおります。一方、今年の2月に独国REALIZER社の買収を含む積層技術の強化、中長期的に新たな事業機会をもたらすIoT、

AIなどの技術強化を目指し先行投資を進めているほか、先端技術研究センターの設立などにより研究開発投資を中心に28億円程度の費用が増加する見込みです。差引営業利益は期初計画に比し40億円の増加を見込んでおります。

上期の営業利益率が4.5%に対し、下期の
営業利益率が8.3%と大きく改善する
見込みです。

下期は、上期比で生産量が増加することから、単位あたり固定費負担が低下する操業度効果が表面化します。また、ソリューション提供事業の定着の成果である受注粗利益率の改善効果が寄与することなどから、収益率が改善する計画です。

工作機械の省エネは世界の環境を変える

もともと工作機械は地球環境を汚さない、クリーンな機械です。使用年数が15~20年と長い分、省エネの効果は長期にわたり影響します。納入実績15万台以上の当社では、製品そのものの電気消費量削減、工場の省エネルギー化で、工作機械1台あたり年間2,650kgのCO₂を削減し、地球環境保護に努めてきました。さらに2015年からは梱包・物流改革を行い、生産工程やサプライチェーンでのさらなる廃棄物低減やCO₂削減に取り組んでいます。これまで機械輸送時に一度だけ使用され、その後廃棄処分されていた木材での梱包を見直し、海外輸送にはリターナブルパレット、国内輸送にはスチール梱包に変更いたしました。また、東海地区に点在するパートナー22社の生産部品を、パートナー各社の単独輸送ではなく、専用トラック便での集約輸送を行っております。

なお、今後は、伊賀・奈良事業所構内に合計200本以上の桜の木の植樹を計画しており、環境保全に加えた景観美化活動も積極的に進めてまいります。

工作機械の使用年数は
15~20年!

20年後にはトータル

800万トン
以上の削減効果

工作機械1台あたりのCO₂削減量

年間 **2,650kg***1

*1 2012年度の事業者別排出係数等一覧における中部電力株式会社の数値にて算出

株主様向け

東京グローバルヘッドクォータ 見学会のご案内

見学会では、最新鋭の工作機械をご覧いただけるだけでなく、オペレーターによる機械の説明とともに実際のデモ加工もご覧いただくことができます。皆様のご応募をお待ち申し上げます。



写真は伊賀事業所開催時の様子です。

日時 **2017年12月14日(木) 11:00~14:30**

見学場所 東京グローバルヘッドクォータ ソリューションセンター (JR潮見駅より徒歩3分)

参加費 無料 (ただし、集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担をお願いいたします)

募集対象 2017年6月30日時点で当社株式を100株以上保有する方 (同伴者1名可、小学生以上に限る)

募集定員 50名 (応募多数の場合は抽選とさせていただきます)

交通 バス(東京駅⇄東京グローバルヘッドクォータ)もしくは公共交通機関

備考 昼食をご用意しております。

お申し込み

左記のQRコードもしくは下記のURLからのお申し込みのみとさせていただきます。
<https://www.dmgmori.co.jp/sp/irtour/>

締め切り

2017年10月20日(金)
11月中旬に当選者にもみご連絡(落選の場合はご連絡は差し上げません)

お問合せ

DMG森精機株式会社
広報・展示会部 広報グループ E-mail : users@dmgmori.co.jp



会社の概要

2016年12月31日時点

会社名	DMG森精機株式会社
資本金	51,115百万円
設立	1948年10月
本店(登記上)	〒639-1160 奈良県大和郡山北郡山町106番地 TEL : 0743-53-1125(代)
名古屋本社	〒450-0002 名古屋市中村区名駅2丁目35-16 TEL : 052-587-1811(代)
東京グローバルヘッドクォータ	〒135-0052 東京都江東区潮見2丁目3-23 TEL : 03-6758-5900(代)
主な事業内容	工作機械(マシニングセンタ、ターニングセンタ、複合加工機、5軸加工機及びその他の製品)、ソフトウェア(ユーザーインタフェース、テクノロジーサイクル、組込ソフトウェア等)、計測装置、サービスサポート、アプリケーション、エンジニアリングを包括したトータルソリューションの提供
従業員	12,307名(連結)
ホームページ	https://www.dmgmori.co.jp

株式の状況

2017年6月30日時点

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式の総数	122,968,457株(自己株式2,985,226株を除く)
単元株式数	100株
中間期末株主数	33,471名

大株主

2017年6月30日時点

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,303	5.13
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,975	4.05
森 雅彦	3,540	2.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(森記念製造技術研究財団口)	3,500	2.85
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL(常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	3,143	2.56
JP MORGAN CHASE BANK 380055(常任代理人 株式会社みずほ銀行)	2,726	2.22
DMG森精機従業員持株会	2,662	2.17
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,557	2.08
野村信託銀行株式会社(投信口)	2,228	1.81
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	2,219	1.81

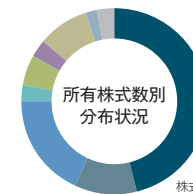
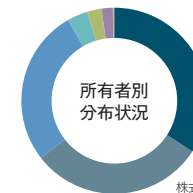
(注)1.当社は、自己株式(2,985,226株)を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
2.持株比率は自己株式を控除して計算しております。

役員

2017年6月30日時点

取締役社長	※ 森 雅彦
取締役副社長	※ 玉井 宏明
取締役副社長	※ 小林 弘武
専務取締役	高山 直士
専務取締役	大石 賢司
取締役	青山 藤詞郎
取締役	野村 剛
取締役	中嶋 誠
取締役	御立 尚資
常勤監査役	近藤 達生
常勤監査役	佐藤 壽雄
監査役	加藤 由人
監査役	木本 泰行
監査役	土屋 総二郎

(注)1.※印は、代表取締役を示しています。
2.取締役の青山藤詞郎、野村剛、中嶋誠、御立尚資の4名は、社外取締役です。
3.監査役の加藤由人、木本泰行、土屋総二郎の3名は、社外監査役です。



株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
期末配当金 受領株主確定日	12月31日
中間配当金 受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-782-031(通話料無料)
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 電話：0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 市場第1部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.dmgmori.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未済株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

<https://www.dmgmori.co.jp/>

ホームページにて当社の企業情報を随時公開しています。
製品紹介、各種リンク、サポート情報などを掲載しているほか、
コーポレートサイトでは決算短信などもご覧いただけます。



TOPページ



コーポレートページ

Facebook 毎日更新中!



いいね!

お待ちしております。

